

P-25

微小循環および血液レオロジーに対する釣藤散の効果 —釣藤散長期投与による検討—

富山医科薬科大学 医学部 和漢診療学講座

○楊喬, 喜多敏明, 引綱宏彰, 嶋田 豊, 伊藤 隆, 寺澤捷年

【目的】前回演者らは、健常人を対象とした急性負荷試験において、釣藤散投与により眼球結膜微小循環の血管内径、血流速度、血流量が増加することを報告した。今回は釣藤散の微小循環および血液レオロジーに対する影響を明らかにする目的で、脳血管障害患者を対象に釣藤散長期投与を行った。

【対象と方法】対象：当科通院中の脳血管障害患者（無症候性を含む）16名（男性4名、女性12名、50～79歳、平均年齢±S.D. : 63.5±8.1歳）。方法：釣藤散料（煎薬300ml）を1日3回に分けて服用させ、釣藤散投与前と4週間投与後に以下の項目を検討した。12時間絶飲食後の午前9～10時に30分間安静とした後、患者の眼球結膜微小循環をビデオ顕微鏡システムで観察し、単一の血管内径の変化（ID）、血流速度（FVe）、単位時間当たりの血流量（FVo）、血管内赤血球集合が観察される血管の中で最大の血管内径（DEA）を測定した。また、同時に採取した血液検体から回転式E形粘度計を用いて補正全血粘度と血漿粘度を測定し、血球濾過法を用いて赤血球変形能と白血球変形能を測定した。

【結果】釣藤散4週間投与により、ID、FVe、FVoは有意に増加した。また、血液粘度（補正全血粘度、血漿粘度）の改善は見られなかったが、赤血球変形能、白血球変形能及びDEAが有意に改善した。

【考察】健常人を対象とした釣藤散急性負荷と同様にID、FVe、FVoは有意に増加し、釣藤散長期投与により脳血管障害患者の微小循環障害が改善する可能性が示唆された。さらに、その機序として、血管拡張作用だけでなく、赤血球および白血球変形能や赤血球集合能などの血液レオロジー因子に対する改善効果も寄与していると考えられた。